

これより大同大学による

100年後の地盤工学

～地盤工学の未来は実に輝いている！～

の発表を始めます

東北地方太平洋沖地震

2011年3月11日14時46分18.1秒

日本の太平洋三陸沖を震源として発生した地震

東日本大震災を引き起こし

東北から関東にかけての東日本一帯に甚大な被害をもたらした

地震に伴う地盤沈下により、海岸や河口付近などで浸水や冠水のおそれ

石巻市塩富町では、満潮時に町全体が水没

関東・東北地方の広い範囲で液状化現象が発生

建築物の傾斜や断水・ガス供給停止

地震発生以後

地震保険に関心を持つ人が増える



高い地震への関心(中部地方では東海地震や東南海地震に高い関心)

防災への関心が高まる

これにより、以後の地盤工学は飛躍的な発展を遂げる

といいな、とか思います

しかし,現実問題として

地盤工学会員の会員数は年々減り続けているようで
且つ,理系へ進学する学生も減り続けています

場合によっては,100年後の地盤工学会は
土木学会に吸収合併される可能性も無きにしも非ず

という不安な未来も想像することができます

それも全ては今後の活躍次第です

私達のような若手の技術者が今後どのように活躍できるかにかかっています

先輩方の成果を引き継ぎ,後に伝えていく

また,伝えるだけでなく自らも新たな発見を見つけ出す

当たり前積み重ねが堅固な地盤工学会を創り出すと思います

では,地盤工学会を考えずに地盤工学を考えるとどうなるでしょうか?

というのは,今までの話は地盤に関する話で進めてきました

そもそもの問題として,100年後の私達はどこに居住空間を持っているのでしょうか?

元来地盤の堅固な場所に居を構えているのでしょうか?

それとも地盤を改良を行い,耐震性に優れた場所に居を構えているのでしょうか?

場合によっては,地震の多い日本列島から

海外へ移り住むことも検討されるのかもしれませんが

その問いに対して私はこうであれば良いな・・・と思っています

例えば

大地から去り
居住空間を宙に

参考: 天空の城ラピュタ



例えば

大地に根を張ることなく
居住空間が自走できる

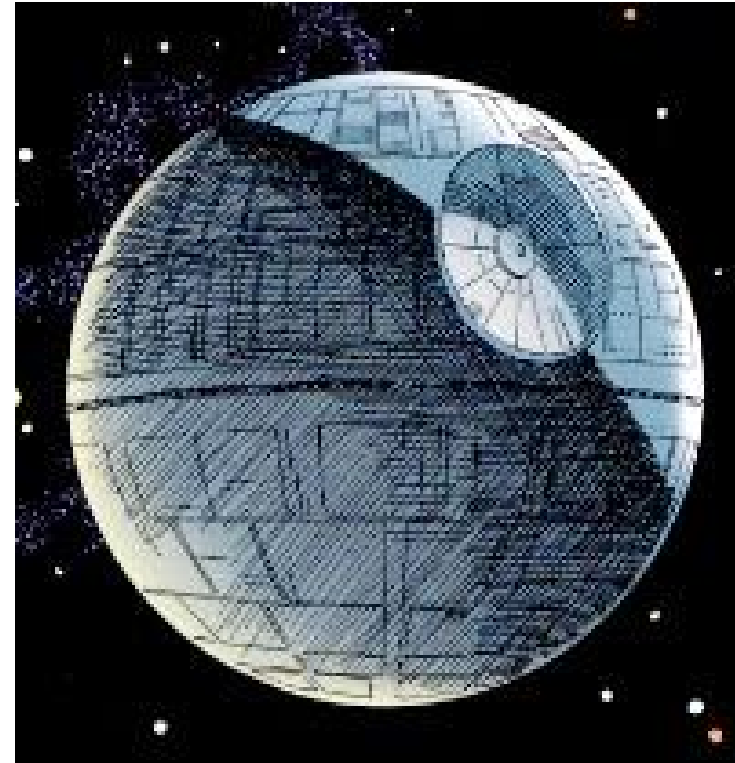
参考: ハウルの動く城

更に技術は進展して・・・

例えば

地球を飛び出し
宇宙に居住空間を創り出す

参考：銀河英雄伝説より
イゼルローン要塞



ここまで技術が進歩していれば
今後の地盤工学も安泰であると思います
何故なら・・・

宇宙まで飛び出してしまえば
新たに発見された惑星等の地盤研究もなされると思います
100年に至るまでのノウハウと元に新惑星への地盤調査の開始です！

地盤工学の未来は実に輝いていますね！

おわり